

1. 授業のねらい・概要

経済のグローバル化がいわれて久しい。また私たちの日常生活でも世界とのつながりは、想像以上に深まっている。例えばコンビニエンスストアで販売されているお弁当は、その具材の由来を尋ねてみると、日本産のものはほとんどなく、アジア、中近東、南アメリカ各地で育てられ、そこで加工されたもので占められている。またインターネットを利用すれば、容易に世界中の情報がリアルタイムで利用でき、そのスピードと利便性は日進月歩である。

私たちのこのような生活の変化は、しかし必ずしも世界に対する確かな視点を養っているとはいえない。例えば、世界経済における貧困問題についてはどうだろうか？ただ単に新聞やテレビで耳にする以上に、そもそも世界のどこで、何が原因で貧困が生まれているのか、どのような対策が必要とされているのか、またその対策の効果について正確な知識と理解を私たちは有しているだろうか？

この講義では、現在の国際経済を取り巻く主要な経済問題について、その包括的な見取り図を提供することを意図している。特に国際貿易、貿易政策のあり方を理論的・実証的に講義していくのが狙いである。さらには今年は特に難民問題、移民、外国人労働者の問題に重点をおき経済学の基礎的な理解を養っていきたい。

2. 授業の進め方

以下にあげた教科書を利用して、特に基本的な事項を選択して、初心者で予備知識がまったくなくても現実の国際経済の状況への理解ができるように順を追って講義を進める。適時、ビデオ教材などを利用して視覚的に現在の国際経済の動向を紹介することも試みたい。また特定テーマについて集団討論を行う予定である。

3. 授業計画

1. 世界経済の輪郭	9. 貿易政策概論
2. 比較優位と貿易	10. 貿易政策の政治経済
3. 所得分配と貿易の関係	11. 開発途上国の貿易政策
4. ヘクシャー＝オリーモデルの解説	12. 貿易政策をめぐる論争
5. 一般的貿易モデルの簡単解説	13. TPPをめぐるグループディスカッション
6. 規模の外部性と立地の経済	14. 移民の経済学
7. 多国籍企業の経済学	15. 難民の経済学
8. 経済制裁の政治経済	

4. 到達目標

世界経済事情について講義の各テーマについて、一通りの理解と習得ができていること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として1時間程度の学習時間が必要。

6. 成績評価の方法・基準

授業中の取り組む姿勢を重視する。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価していく。

7. テキスト・参考文献

クルーグマン&オブストフェルド&メリッツ『国際経済学 貿易』（丸善出版）

ジョージ・ボージャス『移民の政治経済学』（白水社）

Naohiko Omata 他著 Refugee Economies: Forced Displacement and Development OXFORD UNIV. PRESS

8. 受講上の留意事項

特にない。